

令和7年10月1日

学校関係者評価報告書

学校法人南京都学園 京都福祉専門学校 学校関係者評価委員会は下記のとおり「学校関係者評価」を実施したので、これを報告いたします。

開催日時 令和7年9月26日（金）15:00～16:30 オンライン開催

出席者	委員長	京都福祉専門学校 校長	平 尾 克 英
	委 員	公益財団法人 京都府レクリエーション協会 副会長	山 本 満 佐 子
	委 員	北宇治地域包括支援センター センター長	森 下 良 亮
	委 員	学校法人南京都学園 法人本部 企画室 室長	中 本 敦 史
	委 員	学校法人南京都学園学園長補佐／南京都学園教育研究所所長	塩 見 孔 爾
	委 員	京都福祉専門学校 事務長・入試広報部長	西 岡 さ お り
	委 員	京都福祉専門学校 教務部長	美 谷 島 正 行
	委 員	京都福祉専門学校 進路指導主任	芦 田 徳 子
	委 員	京都福祉専門学校 教員	丸 岡 晃 嗣
	委 員	京都福祉専門学校 教員	中 島 由 紀 子
校長以下	10名出席		
欠席：	京都動物専門学校 副校長	大 塚 浩 也	

評価項目	説明及び評価・意見	対応等
1. 学校運営	<p>（説明）</p> <p>本学園訓の「愛・信・敬」をもとに日々の学校運営を行っている。常に教職員一人ひとりが資質能力を高める努力を行い、知の共有化及び情報共有を密にして学生指導に当たっている。</p> <p>また、時代に即した学校運営の工夫と弾力的な仕組みの構築も目指す。</p> <p>（評価・意見）</p> <p>学校は日々、教職員の連携が図られている。</p> <p>今後も透明性の高い組織的な学校運営を続けていただきたい。</p>	<p>平成8年4月、この“宇治の地”に開校以来30年が経った。2040年問題、2050年問題、2060年問題、日本における介護人材不足が問われる中で本校は一人でも多くのリーダー的人材を養成するために日々地域との連携を保ちながら前進している。</p> <p>常に学校の組織体制の再編整備も行い教職員一人ひとりが個々の能力を高め、養成校の使命である介護の質及び人間力をさらに上げていく努力が求められていると認識する。</p> <p>昨今では外国人留学生の入学も増加傾向にあり、日本人とともに様々な文化に触れ、互いに“愛情”“信頼”“尊敬”の念をもって、</p>

		意欲的に学び向上していくことがリーダー的人材養成に繋がるものと確信している。ひいてはそれが介護を必要とする方の“生き甲斐”となることは間違いない。
2. 教育活動 (カリキュラム編成)	<p>(説明)</p> <p>本校の特色である教科(京の文化)(福祉セラピーA・B)について、時代に即した授業内容の工夫も検討し更新している。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>特色ある教科の充実は生徒のスキルアップに繋がるため非常に意味のあることと考える。さらに校外での施設見学や体験授業も充実していけばよいのでは。</p>	<p>本校の特色ある授業として継続実施していく。</p> <p>社会に求められる人材育成を行うために時代に即した内容を常に意識して実践している。</p> <p>昨年より事業所の方を授業に招いて地域共生社会について学ぶ機会を提供している。現場が求める人材と教育内容に乖離がないよう現場の生の声を聞かさせていただくことにより、学生の意識付けをさらに強化していく。</p> <p>また、地域のニーズを拾い上げる人材の育成にも力を入れている。</p>
3. 学修成果 (教育指導) (資格)	<p>(説明)</p> <p>日々の学修成果は各授業内で定期的に小テストを実施し、年2回の試験を実施。</p> <p>また、国家試験に向けての対策授業においては定期的な校内試験を実施した。外部試験では年に数回の模擬試験を受け着実に実力をつけていけるよう指導している。</p> <p>資格については、介護福祉士を主として関連資格も多く設定し開講している。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>教科毎に小テストを実施しているのは良いと思う。国家試験の合格率が高いのは日々の積み重ねの結果だと思う。</p>	<p>各教科授業では、シラバスに則り進行しているが、過去の国家試験問題等を取り入れながら行っている。さらに国家試験対策授業の実施や2年次では年内で授業を終わらせ、体調及び気持ちも1月末の国家試験に焦点を合わせている。</p> <p>その結果、全員受験全員合格100%を達成することができた。</p> <p>関連資格については、「京の文化」や「福祉セラピー」を取り入れた特色ある授業を継続して展開していく。就職後、オールラウンドで活躍できる介護福祉士としての資質を高めていく。</p>
4. 学生支援 (施設実習) (介護福祉士修学支援制度)	<p>(説明)</p> <p>2年間で10週間の施設実習においては区分Ⅰ-①②、区分Ⅱ-①、区分Ⅱ-②と3回に亘って実施。個々の生徒に合った施設への配置を考えている。</p>	<p>段階ごとにレベルアップしていく中で、学生にとって記録を書くことが重労働である。しかし、施設の指導者からのアドバイスや教員巡回訪問、帰校日において学生の気持ちを十分に把握しながら担当教員が綿密な指導を行っている。</p>

	<p>介護福祉士修学資金制度については、京都府の次年度予算に基づいて実行されるため、慎重に取り扱う必要がある。また外国人留学生にも対応しているため有効に利用したいと考えている。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>介護実習では途中でリタイアする学生はいるのでしょうか。京都福祉の学生は学内での生活支援技術がしっかりとできているため質が良いと聞いております。</p>	<p>介護福祉士修学資金は学生及び学資負担者にとって非常に有利な奨学金制度であるため、今後も有効利用していきたい。</p> <p>また、外国人留学生においても活用していきたいと考えている。</p> <p>学生のモチベーションを向上させ当初目標達成に向け、実習配置を行っている。</p> <p>一つひとつ着実に進めて行けるよう個別面談等を取り入れ指導している。</p> <p>学生のキャリア形成に繋がる問題意識と探究活動の強化を図っていく。</p>
5. 教育環境 (施設設備) (ICT 活用)	<p>(説明)</p> <p>開校以来 30 年目を迎え介護福祉士養成のために設立された施設であり、特に老朽化もなく学習しやすい環境が維持できている。介護実習室・入浴実習室の広さが十分に確保されており、また 3 階の講堂ではレクリエーションや実習報告会・地域連携イベント等さまざまな学校行事で利用している。</p> <p>ICT については昨今の様々な分野において活用されつつあり、介護の現場ではロボットを利用している施設も増加傾向にある。人とロボットとの協働・調和として ICT を組み合わせた効率の良い安心安全な介護を目指し、可能な限り時代のニーズに合わせた教育を行っていくことも視野にいれている。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>校舎は落ち着いた雰囲気であり、学生が学習し易い環境が整っている。</p>	<p>今後も充実した施設設備を有効に使用していく。空調及び電気関係の新規導入を実施。一部、更新されていない個所もあるが、段階を経て実行していく。</p> <p>また、単年度の事業計画や中長期計画にも組み込み、常に安定した教育環境が提供できるよう心掛けている。</p> <p>教室にビッグモニター等を取り入れ理解しやすく効率の良い授業が展開できるよう工夫している。</p> <p>また各教科担当教員の個性的・特徴的な授業も大切と考える。</p> <p>ICT に頼りすぎない講義・演習・実習のバランスの取れた授業が求められ、対人援助職としてご利用者のニーズに合わせた援助ができるよう考えていくことも必要と思われる。</p>

<p>6. 学生の受入れ募集</p>	<p>(説明)</p> <p>超高齢社会を迎えている日本ではあるが、介護分野の学生募集は非常に難しい状況である。介護の現場に質の高い人材を送り出すためには養成校で学習し、さまざまな知識を習得させることが求められている。</p> <p>今後も専門職の必要性和介護の魅力を発信し定員充足率を上げ、多くのリーダー的人材を現場に送り出すことを目指している。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>全国的にみても介護の養成校は非常に学生確保が難しいと聞いている。人生 100 年時代、引き続き日本の介護人材確保のために介護の魅力や遣り甲斐を広報していただきたい。</p> <p>また、養成校として一定レベル以上の外国人留学生の受け入れも不可欠と思われる。</p>	<p>現在、2040 年問題が問われている。昨今ではあるが、介護の質と量を合わせて確保しなければならないという非常に難しいことが起こっている。</p> <p>介護人材が 55 万人不足。しかも、後期高齢者の内、4 人に 1 人が認知症という病気になるとも言われている。このことにより、質を確保しながら量を求めることが重要で、量のみを求めれば日本の介護は衰退していくと考える。</p> <p>地道な活動ではあるがさまざまな施策で介護の魅力を発進し、専修学校専門課程の基本的な基準を崩すことなく質の高い人材養成を前提に募集活動を行っていく。</p> <p>また、本校独自の選択科目を設定しているが、引き続き学校の特色を出し、より選ばれる学校としてブランド力強化を図っていきたい。</p>
<p>7. 社会貢献・地域貢献</p>	<p>(説明)</p> <p>学校行事である「WEL かん FARE」は地域の方への感謝祭と位置づけ 15 年間の実施をしている。学生主体となりステージ発表・模擬店・グッズ作りなど福祉に関する体験を行い地域との連携を進めている。</p> <p>また、年数回の地域の方向けの「介護教室」を実施し、居宅における介護技術や関わり方等について共に学びの場として開催している。</p> <p>その他に「宇治けんこう楽学広場」では地域の方を学校に招き、健康いきいき体操やレクリエーションなどを実施している。</p> <p>「宇治地域福祉研究所(学校 de カフェ)」では、地域が抱えている諸問題をテーマに専門家を招き、勉強会を実施し参加した人が互いにお茶を飲みながら話せる場を設け、少しでも心が和み、日常生活に希望が持てるよう地域と連携しながら学校開放を行っている。</p> <p>また、宇治市・協議会と連携し</p>	<p>超高齢化・核家族化・老々介護・独居老人というような日本の社会では改善しなければならない問題が山積している中で、介護の養成校が果たすべき役割をしっかりと認識し、基本路線から外れることなく着実に進んでいくことが社会貢献に繋がるものと確信している。</p> <p>地域のことを知り、地域の変化を見据え、地域連携を行いご利用者のニーズを把握することが大切と考える。引き続き社会が求める教育ができるよう日々努力を積み重ねる。</p>

	<p>ながら介護人材を確保していくイベント等も取り入れ、地域と共に学校教育を進めて行く。</p> <p>(評価・意見)</p> <p>京都福祉専門学校は厚生労働省認可の介護福祉士養成校であるとともに、文部科学省認可の「職業実践専門課程」産学連携を実践し、地域とも交流があり、まさに地域密着型の専修学校である。</p>	
--	--	--

以 上